

学校新聞特派員報告書



令和元年7月31日(水)8月1日(木)2日(金)

派遣地 姉妹都市 大分県竹田市

中野市立中野平中学校

大分県竹田市について

現在の竹田市(たけたし)は、社会基盤・行財政基盤の強固を有する新たな地域として生まれ変わるべく、平成17年に4つの市町が合併し誕生しました。人口が約2万2千人(中野市の半分)、面積が477km²(中野市の2倍)で大分県の南西部に位置し、久住連山、阿蘇外輪山、祖母傾連山といった山々に囲まれています。

水と緑があふれる自然豊かな地域であり、山々から湧き出る豊かな名水は全国的にも知られ、多くの人々の生活を支えている一方、市内各地には炭酸泉と言われる長湯温泉を有しています。大自然の恵みを活かした農業や観光が竹田市の魅力となっています。

例えば農業では、標高の高い地域では水稻を中心に野菜(ピーマン、キュウリ、トマト)・果樹(カボス、ピオーネ、プラム)・花き(ワレモコウ、トルコキキョウ)・畜産(豊後牛)等を組み合わせた複合経営が、高原地域では露地野菜(レタス、スイートコーン)・畜産が大規模に営まれており、農業生産額は県内で断トツの1位(H28)です。

また、最近のまちづくりについては、平成24年7月の九州北部豪雨による被災をきっかけに、今後の使用に耐えうる建物のあり方について議論を重ねてきました。最終的に、教育や文化の伝承などに必要な文化施設(図書館、児童公園、総合文化ホールグランツ)を整備復旧する選択を行いました。新たな施設として地域の方々の憩いの場になっています。

(竹田市役所作成「竹田市概要」より一部引用)



竹田市長さんとの記念撮影

竹田市の自然にふれて

竹田市の方に温かく迎えていただき、とても楽しく3日間を過ごすことができました。

特に、岡城が自然の地形や阿蘇山の噴火による堆積物が蓄積したことで形成されていることに驚きました。城門に行くまでには急な坂が続いていること、本丸に近づくほど一つひとつの石垣が大きくどっしりとしていて攻められても負けないつくりをしていることがわかりました。また、城の中にいくつも門が張り巡らされているために守りやすく、攻めにくい構造になっていることも、岡城跡を歩いて見ることで分かりました。「山城」という名の通り、城の周りには崖になっており、城の上から下を覗いてみるととても高く足がすくむほどでした。日本最強の城と呼ばれている理由が分かった気がします。

竹田市で過ごした3日間は、僕にとって本当に貴重な経験となりました。ありがとうございました。



中野市を代表して感想発表を行う生徒会長



交流会で竹田市と中野市のカルタを作成しました

竹田子ども交流集会に参加して

8月1日(木)に緑ヶ丘中学校で行われた竹田子ども交流集会に参加してきました。この集会では、竹田市内全ての小中学校の代表者が参加する集会だそうです。

竹田市は小学校12校、中学校6校、児童・生徒数が約1200人の市です。市内の人数が少ないことを利用して、毎年子ども交流集会を開いたり、駅伝大会を開いたりすることで親睦を深めています。今回の子ども交流集会の目的が「自校の児童会・生徒会活動の成果や課題を発表し、互いに聞きあうことや発表し合うことにより、自治力を養うこと」「竹田市の色々な地域のよさについて知り、竹田市のよさを活かして生活している方の話を聞くことを通して、主体的に竹田について考える」です。



グループワーク1でのようす

グループワークでは、中学生のみで集まり、自分たちの生徒会活動について発表しました。ある中学校では、全校をいくつかの班に分け(学年関係なく)、班ごと給食を食べる活動や清掃に力を入れる活動など参考になることが多かったです。課題として挙げられていたことは、生徒会活動に消極的な人がいるということでした。自分たちの学校でもその課題があるので一緒に対策を考えることができました。また、人数が減少しているため出来る活動が減っている現状を話してくれました。その中でなるほどと感じたのは、いかに活動を見直すかです。先輩方が進めてきた伝統もありますが、人数がいなくてできないことが出てきます。だから、一つ一つの活動を見直し、今の状況で本当に必要な活動なのかを常に検討しているみたいです。私たちが例年通りに行うのではなく、活動を見直しより良い生徒会活動を目指していきたいと思いました。

姉妹都市交流を終えて

竹田市で過ごした3日間は充実していました。交流会で生徒会活動について、滝廉太郎記念館では滝廉太郎さんの人生について、岡城跡では岡城の歴史について学ぶことができました。

普段は自分たちが行っている生徒会活動だけに注目してしまい、他校の活動について考える機会がありませんでした。今回の交流会は、自分たちが行っていない活動について説明をしていたり、逆に今悩んでいることについてありのまま話をしていたり新鮮なものでした。今後の自分たちの生徒会活動やこれから行われる文化祭である「稲穂祭」に活かしていければと思っています。



滝廉太郎記念館では、DVDの視聴や館内にある資料を見学することを通して、廉太郎さんが短い人生の中でもたくさんの優れた作品を作り出していたことを学びました。私も廉太郎さんのように濃い時間を過ごしていきたいです。

また、3日間を通して、竹田市が緑あふれる素敵な場所だということが分かりました。例えば、岡城は山々に囲まれ、すごく高い位置に建てられていました。本丸の位置から見下ろすと川が流れていたり、二の丸の位置から見下ろすと久住連山がみられたりと自然豊かな場所だと感じることができました。

最後になりますが、今回私たちの為にこのような機会を作って下さった中野市の皆さん、時間が許す限り様々な場所へ案内をいただき、優しく丁寧な説明をして頂いた佐田さん、竹田市役所の皆さん本当にありがとうございました。

滝廉太郎記念館に学ぶ

瀧廉太郎記念館は、実際に廉太郎さんが住んでいた場所です。私は、記念館を訪れたときにふと、「廉太郎さんはこの景色を見ながら作曲をしているのかな」と思いました。縁側から見た庭は、風情があり落ち着いた雰囲気だったので個人的に好きになりました。記念館には中野市から送られた記念品（バイオリンのストラディバリウス）があり、中野市との交流の深さも感じることができました。

実際に、瀧廉太郎さんが使用していた部屋も見ることができました。そこには、「荒城の月」の詞がありました。誰もが知っている曲を作るのはすごいことだと改めて思いました。また、記念館には瀧廉太郎さんが実際に書いた手紙が保管されていました。昔の字なので私には、読み取れませんが字がとてもきれいだったことを知ることができました。

記念館の中には、瀧廉太郎さんとゆかりある人の資料もあり、「荒城の月」で作詞を担当した「土井晩翠」さんの資料もありました。土井晩翠さんは仙台市出身です。昭和42年に中野市・竹田市・仙台市の3都市で結ばれた音楽姉妹都市ですが、このように交流があるのは素晴らしいことだと思いました。



滝廉太郎さんの直筆手紙に一同感動

竹田市との交流を終えて

竹田市の魅力や名所など、今まで知らなかった竹田市の事を知ることができて良かったです。特に、竹田市は山々がすごくきれいで自然がいっぱいでした。それだけでなく、竹田の街並みも古き良き伝統ある建物やこれからの竹田市を担う新しい建物などすごく雰囲気が良かったです。

2日目は、竹田市内の小中学生との交流会を行いました。交流会では、学校によって人数の差が大きいことに驚いたり、グループワーク1の発表を共有し合うことで互いの生徒会活動を参考し合ったり、グループワーク2でのカルタづくりで一緒に仲良く活動することができました。



交流会で地元の中学生と仲良くなりました！

岡城跡見学では、戦国時代のときにどのような城として守られていたのかを学芸員の方の話を聞くことを通して、学ぶことができました。あれだけ急な坂が続いたり、山に位置したりするところに石垣をつくることや攻められにくくするにはどうすればよいかなどの工夫を考えた、昔の人の知恵はすごいなと感じることができました。

私は、初めて大分県竹田市を訪問しました。自然豊かで市役所をはじめとする竹田市に住む方々皆さんすごく優しく温かい方だと、この3日間で感じることができました。また、行きたいなと思える場所でした。

この3日間、私にとってとてもいい経験になりました。ありがとうございました。

中野市出発！



竹田市役所前にて



市長さんへ中野市特産品を贈呈



市役所表敬訪問無事終了！



宿泊したホテル「つちや」



館長さんによる説明(総合文化ホール)



竹田市子ども交流会に参加！ 竹田市の魅力を知り、中野市の魅力を伝えることができました



モザイクガラスを体験しました



滝廉太郎記念館にて



高原名物のソフトクリームを食す



荒城の月のモデル岡城跡



学芸さんによる岡城説明 日本一の山城！

